

「応援金115（いいこ）で未来を語ろう」



日 時 : 令和7年7月24日(木) 午前9時～10時00分

場 所 : 勝山市役所3階 第1委員会室

出席者 : 水上市長 道関教育監 織田こども課長

勝山南部中学校: 3年 小山智之(旭毛屋) 3年 滝本弦太朗(平泉寺)

勝山中部中学校: 3年 大下逸恵(沢町) 3年 栃木香音(栄町)

勝山北部中学校: 3年 鈴木峻(荒土町) 3年 笠川美空(北郷町)

自己紹介(学校名、氏名、居住地域)

市長あいさつ

水上市長

勝山の今の人口は、2万人ぐらいで、家の数は7千から8千ほどである。

私が皆さんと同じ年の50年ほど前は、おおよそ3万2、3千人ほどいた。少しずつ子どもの数が減ってきていることは間違いなく、これは勝山市だけでなく、全国的に人口数は減少している。人口数は減ってきているが、お年寄りの数はそんなに変わらず、5人に2人は、65歳以上の方となっている。

勝山市で、去年生まれた子どもの数が76人。一昨年は86人。自分の時の3中学校を合わせて同級生は、700人ほど在籍していたと思う。皆さんの同級生は、何人？(南部66人、中部62人、北部37人) 160人ほどしかいない。

そういった状況の中で、いろんな団体球技をしたくても、ちょっと寂しいという状況が起きてきている。

勝山市も少し形を変えていかなくてはならないと考えている。その中で1番大きな取組みは、勝山中学校の建設である。今の中学1年生の子が、勝山中学校に3年生で入学することになり、2年生が各中学校の最後の卒業生となる。皆さんが中学校を卒業し勝山高校に入ったら、後輩と一緒に活動することができる。

また、勝山市は皆さんが小さい時から、子育て支援を一生懸命行っている。

児童センターの利用がしやすいような手だてをしたり、お父さんお母さんはわかっていると思うが、保育料を少しでも安くしたり、病院でかかった医療費を少しでも安くするように取り組んできた。

他にもいろいろな手当があるが、皆さんはあまり知らないのではないかな？

なぜ知らないかという、今までは皆さんが大きくなることに対して、お父さんお母さんを応援してきた。

今年、応援金115(いいこ)がスタートした。応援金115(いいこ)は、勝山市で生まれた、あるいは転入してきたこどもたちに、月で換算すると5千円、1年につ

き6万円を0歳から18歳まで支援しようというものだ。生まれた時の1万円のお祝い金をあわせ、19年間で115万円。市役所では115（いいこ）プロジェクトを立ち上げて他にもいろいろな取り組みを行っている。

この115万円のお金は、お父さんお母さんの応援ではなく、ここにいる皆さんの人生を応援するために使ってもらいたいと思っている。手続きをしたこどもの口座に明日、6万円が振り込まれる。それが毎年行われる。

中学生の皆さんはもう数年ということになるが、是非皆さんに使って欲しいと思っている。

今日は、疑問に思っていることやいろいろな事について、皆さんの話を聞きたい。

『今、チャレンジしたいこと、将来の夢は？』

道関教育監　　まず、みんなは現在、何に頑張っているのかという事や、将来何を頑張りたいと考え、どんな夢を持っているかをそれぞれ自由に話をしてもらいたい。

滝本（南部）　　僕が頑張っていることは、トライアスロン。トライアスロンというのは、泳いで、自転車をこいで、走るという3種目を一気にやる競技で、一つ一つの競技にお金がかかる。それを3つ合わせるので、資金的に支援がないと厳しい。そう思うとこの応援金は、すごく嬉しい。

もう1つ頑張っているのは、母の農業の手伝いを頑張っている。今朝も朝から荷物を担いで土手を歩いてきた。

水上市長　　以前から滝本さんが妹さんと一緒に、トライアスロンを頑張って活躍している姿を、ネット等で見ている。パン作りも頑張っているのかな。

道関教育監　　トライアスロンは、どれくらいの費用が必要なのか。

滝本（南部）　　僕の乗っているバイクで、70万円。今欲しいと思っている靴が6万円。大会の出場料が1万円や2万円。移動料もあるし、自転車も持っていかななくてははいけないので、結構かかる。

道関教育監　　他の人はどうか。

笠川（北部）　　高校からの話になるが、将来の夢は保育士。今、保育士の人数が減っているので、少しでも役に立てるように頑張っていきたいという思いがある。保育士になって、どう関わっていけるかわからないが、ものづくりとかで少しでも役に立てることができたらいいなと考えている。

水上市長　　保育園の数も、こどもの数も減ってきているが、保育士の仕事はなくなる。ぜひ勝山市で保育士になってくれると嬉しい。ものづくりとは、例えば？

笠川（北部）　　お遊戯会等の衣装とかを作れたらいいなと思う。

大下（中部）　　僕が今頑張っていることはサッカーで、部活動は引退したが、午前中や時間があるときに、学校のグラウンドを使ってサッカーをしたり、いろいろなサッカーの動画を見ている。高校生や大学生、大人になってもサッカーがしたいと考えていて、そのためにいろいろと頑張っている。

水上市長　　友達と一緒にしているのか。

- 大下（中部） 友達とする時もあるが、だいたいは一人でしている。
- 水上市長 ぜひ、その夢に向かって頑張ってもらいたい。
- そして、どの子にも言えるが、選手になって全国で頑張ってもらいたいという気持ちもあるが、同時に長く続け後輩を育てたり、自分たちが地域で活動したりすることもいいと思う。ぜひ頑張ってもらいたい。
- 栃木（中部） 私も将来の夢は保育士だ。自分は、高校へ行って保育のことを学びたいと思っている。保育のことを学ぶとなると、福井の高校に行かないといけない。高校に行くことでお金がかかる。そのためにこの応援金を使いたいと思っている。
- 水上市長 保育士になりたいという人が減っている中、保育士希望者が2人もいるということは、こども課としても嬉しい。ぜひ目指してもらいたい。保育士を目指すのに高校生からというのも面白いと思うが、高校を卒業してからスタートしても良いのではないかな。市内の保育士の何人かを知っているが、自分が知る限りでは、高校を卒業してから保育士の勉強を始めた人が多い。高校を卒業してから専門学校や、短大、大学へ行き資格を取っている。地元の高校に進んで、卒業をした後に幅広く学んでから保育士の道へ進むというのも1つかもしいない。また、高校から福井市へ通うのも一つの方法だとも思う。
- まだ少し時間があるので、色々考えてみて欲しい。人生が長くなっているのに、夢を一点突破で行くというのも1つの方法だが、幅広く夢を持つ中で選択を絞っていったり、途中で変えたりすることもあって良いと思う。広く学ぶことで保育士以外のこどもに関わることや、地域に関わることをかを選ぶことができるのではないかな。
- 頑張ってもらいたい。
- 小山（南部） 僕も大下逸恵君と一緒にサッカーを頑張っている。僕にとってサッカーはかけがえないもので、サッカーでいろいろなことを得ている。必要な人間関係等、いろいろなものが得られる。後、単純に楽しいのでサッカーは頑張っている。
- 水上市長 大下君のことを、普段から知っているの？
- 小山（南部） 合同チームでやっている。
- 水上市長 一般的なイメージとして、サッカーは楽しくてカッコいい。しかしそれだけでなく、サッカーを通じて人間関係、チームワークや譲り合い、時にはライバルといったものを、ひとつずつ積み上げていく事にサッカーのすばらしさがあると思っていることを聞いて感じた。競うあうスポーツだから、どうしても攻撃的になったり、人を押しのけなければならない時もあると思う。それだけでなく人間関係を築くことや、お互いに助け合い高めあうことができるのがスポーツの素晴らしさだと感じているので、今後も頑張ってもらいたい。
- 鈴木（北部） 僕が今頑張っていることは、勉強。将来は海外に住みたいと思い、海外の企業で仕事に就けたらいいと思っている。
- 水上市長 世界が狭くなってきていて、世界中の情報がすぐに手に入る。それこそ中国のどこかで事件が起こると、日本の人が巻き込まれたり、アメリカの大統領がなにか1つ物を言うとか、日本の留学生や企業に関係してくる。ヨーロッパでもすぐに日本に影響してくる

と共に情報もすぐに入る。いろんなことで世界が1つになっている中で、比較的日本人は日本の中で活動していく若い人が多いと感じている。

先日、ALT と話した中で、その人のふるさとでは、中国やメキシコなどいろいろな国の人がたくさんいるが、日本人はほとんどいないそうだ。それはなぜかということ、日本に来て初めて分かったと言っていた。日本人は英語が話せないと、海外へ出たがらない。そこが一つネックになってしまっている。他の国の人は、英語が話せなくても、積極的にアメリカに来てから英語を取得しようとする。

日本人は日本人同士で固まってしまう傾向がある。海外といっても様々だが、海外に出ていろんなことに挑戦することはいいと思う。

それは、鈴木さんに限らず、保育士を目指していても、サッカーをがんばっていても、海外の人との交流や、海外に出て海外の人とやり取りを積極的に取り組んで欲しい。

もし、外国の人が道に困っていたら助ける？すぐに声をかけられる？

中学生 英語が話せないから…。

水上市長 では、日本のおばあちゃんが道で困ってて動けなくなっていたら助ける？
声をかけることができる？

中学生 声をかける。

水上市長 やはり、言葉が通じないということがネックになっているのではないか。中学生になってどれだけ勉強をしても、今のように道を歩いている外国人に声をかけるということに、勇気が出ない。

しかし、日本人も外国の人も、区別することなく同じ人間として接することができて欲しい。そのためにも、英語の勉強というより、英会話ができる環境を、皆さんや皆さんの後輩に用意したいと思っている。

勝山市では、英会話ができる環境を皆さんに提供できないかと考えている。教育会館を改修する際には、ALT や CIR と一緒に、普段から英会話ができるような環境を作りたい。

海外の子どもたちがお母さんと一緒に話すような自然な形で、英語で外国の人と話せるようになって欲しい。鈴木君も、福井県からも海外に留学している人や、素晴らしい結果を出している人もいっぱいいるので、英会話の力を少しずつ付けていって積極的に取り組むことで夢が実現すると思う。

幸せになって欲しいし、海外で暮らすのもいいけれど、その力を持って是非、勝山に帰ってきてもらいたい。

『応援金 115 をどう使う？』

道関教育監 みんなが頑張っている事や将来の夢を持っているということはわかり、応援金 115 (いいこ) をみんなの夢をかなえるために役立てて欲しいと思う。

応援金 115 (いいこ) で、毎年6万円ずつみんなの通帳に直接振り込まれる事について、率直にどう思うのか。

- 大下（中部） 嬉しい。
- 滝本（南部） ありがたい。
- 小山（南部） 嬉しい。
- 栃木（中部） 嬉しい。
- 道関教育監 事前に話を聞いた時に、北中のみんなは違う反応をした。
- 鈴木（北中） 不安になるところもある。
- 笠川（北中） もらった意味が分からないので、どう使っていいかわからない。
- 道関教育監 以前に聞いたときに、北中の二人は「怖いです」という反応をしていた。応援金115（いいこ）が、どういう意味で自分がもらっているのかを知らないため、訳の分からない大金が突然に自分のところに入ってくるのは怖いと感じていた。その意見について、みんなはどう思うか。
- 滝本（南部） このお金は0歳から振り込まれるので、そういう面では小さい時からお金に触れあうことができるので、僕としては全然いいと思う。
- 道関教育監 なぜこのお金をもらうのかをちゃんと知ってもらう事も大事なことで、どのようにして使ったらいいのかを考えて、おうちの人とも相談をしながら、自分の人生設計ということも考えながら、どこで使うのかということも考えていって欲しい。
- 勝山市の思いを含んだ上で、今後どう使っていこうと思っているのかを、教えてもらいたい。
- 大下（中部） 高校や大学でもサッカーを続けたいと考えている。進学するのにもお金がかかるので、もらったお金を高校や大学の入学費に使えるといいと考えている。
- 滝本（南部） 月々の習い事の月謝にあてたいと思っている。水泳と塾の月謝が合わせて2万1千円なので、月5千円は、月謝の1/4の額になるので、すごくありがたく思っている。
- 栃木（中部） 高校でお金がかかるので、それにあてたいと思っている。
- 笠川（北部） 保育士になるための費用とか、高校に入ってから教科書とかに使えたらいいと思っている
- 小山（南部） 今は不安はないので、将来の自分のための貯金という感じで考えている。
- 鈴木（北部） 習い事や塾に使おうと思っている。
- 道関教育監 こども課で、おうちの方に応援金115（いいこ）をどのように使って欲しいかというアンケートをしている。おうちの方も、みんなと同じように進学費用や、習い事に使って欲しいとか、学習用の教材やスポーツ用品の購入に買って欲しいと考えている声が多いようだ。その他にも、旅行や体験をして欲しいという思いや、貯蓄に回して必要になった時に使って欲しいとか、資格を取って欲しいとか、海外への留学やホームステイという意見も出ている。
- 今後、どのように使えばいいのかということを考えるきっかけにして欲しい。
- 水上市長 アンケートの結果も見せてもらった。どのように使っていったらいいのかという意見も当たり前だと思う。きっと、大人もわからないと思う。でも、考えることはできる。

そのお金を何に使うのかと考えたとき、僕としては、自分への投資をして欲しいと思っている。皆さんが今日話したことは、すべて良いことだと感じて聞いていた。アンケートの中で、「親にくれたらいいのでは」という意見もあったが、なぜ子供たちに渡すのかという意味を考えてもらいたい。親が使うことに否定するのではなく、習いごとの一部にあてることで親の負担が少し減るという考えは、自分がもらったお金が親のためになったということであり、サッカーを頑張るなかで、このサッカーシューズは自分の応援金で買ったとか、塾へ行くにも自分のお金の一部で行っているから、頑張らなくてはいけないと思えるのではないかな。人にやらされているのではなく、自分の意志でしているんだと思って欲しい。いろんな意見があり、みんなの意見が一つになるはずはないと思っているし、みんなが賛同する必要もないと思っている。そういった中で皆さんが肯定的にとらえて、自分のために投資して、自分の将来のために使ってもらいたいと思っている。中学校の友達にもその思いを伝えて欲しい。

『住み続けたいまち、帰ってきたくなるまちはどんなまち？』

道関教育監 中学生を1人育てるのに、大人の人はいくらのお金がかかっているのかを調べた。

1年間で100万円ぐらいが養育費としてかかる。習い事には年間54万円かかるのが全国の平均。

今度は応援金115（いいこ）をどう使っていくかをテーマにしながら、勝山市をどうしていくといいのか、もっといい町にするにはどうしたらいいのか、今住んでいるみんなが勝山市にずっと住み続けたいと思ってもらえるため、あるいは、大学進学等で一度都会へ出た後で、また帰ってきたいと思えるまちになるためにはどのようにしていったらいいかという話をしていきたい。

大下（中部） サッカーが好きなので、スポーツができる環境を整えてほしい。自分の子どもを育てるときにその町の治安が悪かったりすると心配だし、こどもが誠実に育っていけるような環境があるといいと思う。

滝本（南部） 勝山市の仕事といえば何だろうと考えた時に最初に思い付いたのが、母もやっている農業。最近、米の値段が高くなったり、農家の人数が減ってきて、農家という仕事からどんどん人が離れている。その理由を考えたときに、僕の地区だけかもしれないが、おじいちゃんおばあちゃんがとにかく「辛い」とか、「苦しい」「暑い」という言葉をたくさん言う。その言葉を聞いて、こどもが農業をやりたいくならないと思う。子どもは大人を見て育っているわけで、その大人が嫌だとか苦しいと言っている仕事には就かないと

思う。だから、その大人に希望を与えるといいと思い、大人を輝かせて欲しいし、もっとフォーカスして欲しい。

例えば、僕は自転車を毎日50キロほど漕いでいるが、市役所職員の方も一緒に漕いでいる。そして、その人は仕事をした後に、夜にはこどもの陸上の指導をしている。そうやって頑張っている大人を僕はたくさん知っている。そのような大人にフォーカスを当てて取材とかをすることで大人が輝くのではないか。大人が輝いたら、こどもも自然と輝けると思うので、大人を元気にして、活気づけて欲しい。

笠川（北部） 本町通りには空き家が多い。本町通りは勝山市の中でもにぎやかな場所だと思っているので、空き家があるよりは、他県からでもいいのでお店を開く人が出てくれるといいと思う。

例えば、月1でお店の人が交代して販売をするということができれば、勝山に戻りたいという人が出たり、勝山の人自身も月1で変わるお店に対して行きたいという思いが出てくると思う。にぎやかになると思う。

水上市長 大学や高校を出て、どこかで就職をし1度県外へ行くのはありだと思う。それでも、いつかは帰ってきて欲しいと思うので、今出た意見はしっかりと参考にしていきたい。中学校が1つになり、いろんなものに活用していきたいと思っている。

同時に安全・安心という意味では、災害時の避難所としての活用も考えていきたいと思うし、勝山のこどもたちが安全で暮らせる方法の中で、新しいことも含めていくつか考えている。安全・安心なまちづくりをしっかりとしていきたいと思っている。

年配の方は口癖のように「勝山には働くところがない」と言うがそれは正解でなく、実は働けるところ、働いて欲しい人はいっぱいいて、募集をしている企業もあるが、マッチングがなかなかできない。

夢の数だけ職場があるわけではないから100%のマッチングはこのまちでは出来ないと思っている。この5年や10年程の間に若い人が新しく自分で会社を興したり、自分でパンを焼いたり、自分でキッチンカーをしたり、今までの仕事を辞めて自分のやりたい仕事に就いたり、いろんなことに挑戦する人が増えてきている。その挑戦を応援したいと思う。本町通りでの事についても、市が今行っている事業があるので、また広報などを気をつけて見てもらおうと、勝山市で行っている事業に気付くかもしれない。特に空き家対策とお店のことも、お手伝いしていきたいと思っている。

鈴木（北部） テレビの朝のニュースで、移住者がたくさん増えているまちの話が出るが、遊ぶ施設や子育て支援とかがたくさん充実していた。勝山は子育て支援は充実しているが、遊ぶ

施設がないので、やはり遊ぶ施設があるともっと移住者が来るんじゃないかと僕は思う。

小山（南部） 職場の充実はすごく大事だと思う。僕の身近な人も勝山は本当に職場が少ないと言っていたので、もう少し充実させた方が、住み続ける人もいると思う。

栃木（中部） 勝山にないファストフード店はあるといい。自分はファストフードがすごく好きだが、大野市とか福井市まで行かないと食べられない。勝山にも 1 か所だけでも作って欲しいと思う。

水上市長 子育て支援を一生懸命やっていると言ってもらい嬉しい。

今、中央公園と教育会館を改修をし、教育会館を屋内の遊技場にしたい。雪の日や今日みたいな暑い時に、小さい子どもから、高校生・大学生ぐらいまでをターゲットとして、涼しいところで勉強できる場所を確保したい。自分の希望を言うと3×3バスケットボールもでき、スケートボードも楽しめるスペースを作りたいと考えている。そこでは英会話をしたり障害者の子でも使えるような遊具がある環境が、皆さんが高校の間には間違いなく完成をするので、もう少し待っていて欲しい。

遊び場が不足しているように言われているが、恐竜博物館やその周りに公園はあるし、スキージャンプもある。しかし、それが観光客のための施設という感覚になっているようだ。市外の子は大喜びで遊んでいるのに、勝山の子があまり行かないという不思議なことになっている。遊びに行っていたら嬉しい。

自分たちが就きたい仕事の職場がないっていうのは事実だと思っている。選択肢を少しでも広げていくと同時に、このような時代の中で二地域居住やネットを使っている仕事ができないか。あるいは通勤圏がどんどん広がっているが、勝山に居住していても福井・永平寺ぐらいまでの通勤は苦にならなくなっている。

職場を確保すると同時に、勝山市で暮らし続けることができ、近くの市町で仕事をするというのは出来ると思う。働けるまちであるのと同時に、住み続けることができるまちということに力を入れていきたいと思っている。

ファストフードについては、何故かビジネス系のホテルやファストフードのお店が勝山市には建たない。業界ごとに考え方が違うためか、ちょっと珍しい楽しいお店や、美味しい店やリゾート的なものとか高級なホテルはできる。勝山市の人口規模と勝山市の工業出荷高から考えると、ファストフード的な価格帯のものやビジネスホテルで泊まる階層が掴みにくい事情があるのではないかな。

そして、海外の人に来てもらい楽しんでもらい、日本人も外国人も仲良く暮らせて交流ができたり、インバウンドの人たちが来たり、高級なホテルで泊る人も来て欲しいと思

う。おいしいお蕎麦の店もあるし、ファストフードはなくてもおしゃれな店はある状況だ。自分もファストフードには来て欲しいと思っている。

コンビニは結構多い。コンビニのメニューもファストフードとそれほど変わらないが、やっぱりおしゃれじゃないってということだね？

道関教育監 今日、みんなが積極的にお話をしてくれ、立派な内容で勝山の中学生は頑張っていると嬉しく思った。市長さんからいろいろなお話を聞いたが、中学生でもできることがあるかもしれない。生徒会の組織を使ってみんなでこんな運動をしたらできることがあるかもしれない。それも、単独の中学校だけでなく3中学校連合し、勝山を盛り上げるためにやってみてもいいかもしれない。今日の会議がそのきっかけになるといいと思う。是非、市長さんに今後も頑張っている姿をどこかで届けてくれると嬉しい。

滝本（南部） 今までのことで僕的に解釈したが、勝山市に仕事がない理由の1つが、個人事業主が多いことだと思った。その夢の数だけ仕事があるわけではないとおっしゃっていたので、自分でやりたい仕事ができるような環境づくりをして欲しいと思った。個人事業主を助けるような経済的な事をして欲しい。

水上市長 自分がやりたい仕事が近くになくても、自分で会社をおこそうという思いは大事だと思っている。起業家支援を一生懸命やっていく。

織田課長 皆さんありがとうございました。今日の様子は8月14日発行の「広報かつやま」で紹介するので楽しみにしていて欲しい。そして、明日25日は応援金115（いいこ）が振り込まれる。6月に申請された1425人、55%の人に最初に給付する。

現在申請受付をしている人が1952人、76%の人が申し込みをしている。まだ申請をしていない友達や知らないという人がいたら知らせてもらいたい。

（記念写真撮影後、閉会）